

認定看護師会からのお便り

2024年5月号



昨年度は認定看護師の活用方法と連携の実際を紹介させていただきました。今年度は、各認定分野の豆知識を紹介したいと思います。

今回は緩和ケア認定看護師の徳竹秀子さんです。

1. 自己紹介(活動を含め)

病気の初期段階から治療と並行して、体と心の辛さを緩和しQOLの維持、向上を目指した支援に勤しんでおります。

「いつでも」「だれでも」「どこでも」緩和ケアが受けられるように、ともに歩みましょう。主な活動は、

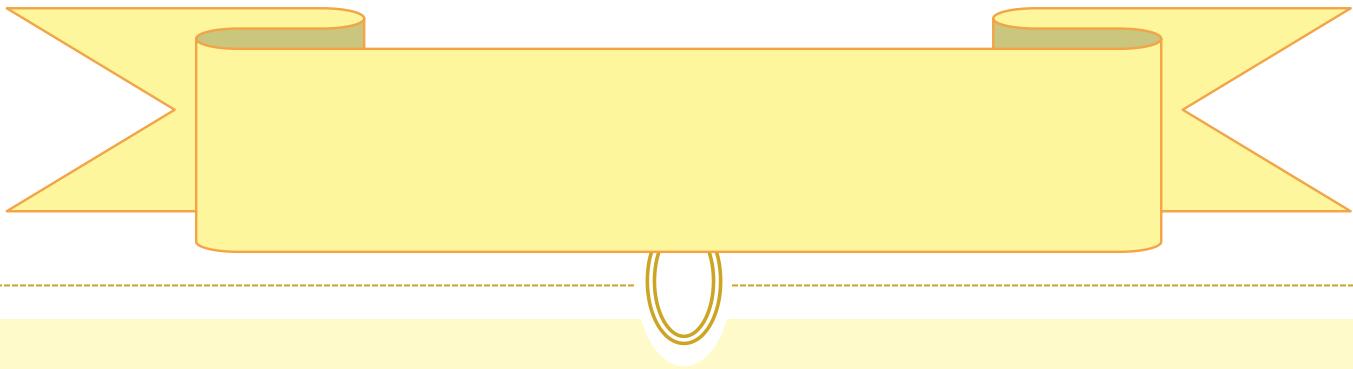
1)外来・病棟での告知、治療方等の重要面談時(IC)の同席、面談 2)緩和ケアチーム看護師として、部署のスタッフと連携し協働 3)その他、カンファレンス参加、研修会等です。

2. 豆知識

➤「一期一会」という茶道に由来する日本のことわざについて

茶道に臨む際、一度きりの出会いや瞬間を大切にする心構えを表す言葉です。茶道の精神を象徴する言葉ですが、何度も会う機会がある人に対して、常に「これが最後かも知れない」と考え、その時を大切にすべき、という教えもあります。一般的によく使われていますが、緩和ケアにおいても、人と出会うことで、自身の成長があることから、出会った人との時間大切に「今、この時」を、ていねいに積み重ねる「一期一会」は、大切な視点といえます。

気になること、先送りしたいと考えた時、「今、この時が大切」「同じ時は二度と来ない、今、しよう」と自分自身に問いかける言葉として、皆様にも参考にして頂けたら幸いです。



続いて、手術室看護認定看護師の池田衣里さんです。

1. 自己紹介(活動を含め)

手術室で勤務をしています池田衣里です。2020年12月に手術看護認定看護師の資格を取得し、2022年3月に特定行為研修(6区分15行為)を修了しました。

主に手術室内で、手術を受ける患者さんへの看護を実践しています。手術室スタッフや医師、MEなど他職種との連携や協力を図りながら、患者さんの手術が安全に実施できるように努めています。

今後は、術後疼痛管理チームも導入していく予定であり、さらに病棟や外来の方とも連携を図りながら、より周術期を意識した看護が提供できればと考えています。

特定行為としては、手術室内やICUから依頼をいただき、Aライン確保の実施や麻酔管理などを行ったりしています。

2. 豆知識

＜タバコと手術との関係について＞

タバコを吸うと術後の痛みに弱くなる！？

喫煙者は術後の痛みが強くなる、鎮痛薬が効きにくくなる、術後の痛みが慢性化しやすいことが指摘されています。その他にも、手術の傷が治りにくくなったり、脳卒中や心筋梗塞、術後の肺炎が起こりやすくなったりします。

これらのリスクを減らすためにも、少なくとも術前4週間の禁煙が必要です。また、タバコを吸わない人でも周りに喫煙者の方がいる場合は要注意です！！タバコから出る煙(副流煙)を吸うことも、術後に同じリスクを生じる要因となります。

そのため、手術を受ける患者さんが注意するだけでなく、同居するご家族などに喫煙者の方がいる場合はタバコを吸う場所を配慮してもらうなど、より安全に手術を受けられるように周りのサポートも重要になります。